

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 13 No.9 2011年5月15日号

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2011 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

ライフサイズのビデオ会議システム、Skypeに対応

Logitech International(日本法人:株式会社ロジクール、東京都港区)の事業部門であるLifeSize(ライフサイズ)は、同社が販売する「LifeSize Passport(ライフサイズ パスポート)」が、Skypeに対応したことを発表した。(4月19日)



LifeSize Passport with PTZ(ライフサイズ社資料)

今回の取り組みは、Skypeが企業向けルームベースのビデオ会議市場へ参入する第一歩となり、LifeSize Passportが企業向けビデオ会議システムとしては世界初めてSkypeに対応したことになるという。これによってLifeSize Passportのユーザは、Skypeユーザとビデオ会議が行えるようになる。

また、同社によるとこの2年間、Skypeと密接に協力し合ってきたという。今回の発表は、多くのユーザがあらゆる環境からアクセスできるビデオ・コミュニケーションを提供するという共通ビジョンを実現したことを示すと説明する。

LifeSize PassportでSkypeのビデオ通話を利用するためには、まずSkypeへのユーザ登録が必要だ。SkypeのログインIDを使用してLifeSize Passportに接続すると、Skypeのコンタクトが自動的にLifeSizeのディレクトリに追加される。その後ディレクトリから名前を選んでクリックをするだけで通話を行うことができる。なお、LifeSize Passportユーザは、Skype経由で固定電話や携帯電話への通話も可能となっている。

LifeSize PassportとSkypeのビデオ通話ができるソフトウェア(バージョン4.8)は、2011年5月に世界中でダウンロード可能となる予定。

ライフサイズ・コミュニケーションズの日本オフィスは、株式会社ロジクール内(東京都港区)にある。

ラドビジョン、スマートフォン向けのSCOPIA Mobile V3を発表、フルビデオ会議が可能

RADVISION Japan 株式会社(東京都台東区)は、スマートフォン端末向けのアプリケーション「SCOPIA Mobile V3」を発表した。(4月11日)

SCOPIA Mobile V3は、アップルOSiやアンドロイドに対応しスマートフォンからHDビデオ会議やデータ共有が行えるアプリケーション。同社の開発者向け「BEEHDクライアント・フレームワーク」をもとに開発されている。

対応したスマートフォンは、モトローラの「Xoom」、サムスン「Galaxy Tab」、HTCの「ThunderBolt」、アップル「iPad」、iPhone4など。このアプリを利用することでモバイルブロードバンドやWi-Fiからビデオ会議にフル機能で参加できるようになる。

また「SCOPIA Elite MCU」を介して、シスコ/タンバーク、ロジテック/ライフサイズ、ポリコムなどと接続すると、複数の相手をひとつのパノラマ画面として表示させることが可能。

会議中のデータ共有では、プレゼンテーション、表計算、ドキュメントなどをH.239機能でデータ共有することができる。あとで閲覧することもできる。ビデオとデータ共有の同時表示に対応している。

一方、会議への接続は、スマートフォンのカレンダーやE-mailをクリックするだけで簡単に行える。会議への招待は、企業の社員情報のディレクトリに接続するか、直接電話番号やIPアドレスを入れて相手呼び出すこともできる。

加えて、会議中には、ミュート、遠隔地のカメラ制御、参加者退出、ビデオレイアウトの変更、レイアウトの中の参加者の一を替えたりなどが行える。

さらには、会議で使用されるビデオや音声コーデック、解像度、帯域、パケットロスなどの統計データをみることもできる。

現行のバージョンは、アップル APP Store の無償アプリとして提供されている。SCOPIA Mobile V3 の出荷は、2011 年下半期に出荷を予定している。

Motolora Mobility Holdings 社とポリコム社、モトローラデバイス向けビデオアプリケーションの開発で協力

Motolora Mobility Holdings 社とポリコム社は、「MOTOROLA XOOM」タブレット向けの HD 対応テレプレゼンスビデオアプリケーションを協力して開発することを発表した。(4 月 27 日)

MOTOROLA XOOM タブレットに、このビデオアプリケーションを搭載することで、ユーザは、MOTOROLA XOOM タブレットを使った、1 対 1 またはグループ (多地点) でのビデオ会議が行えるようになる。ビデオ会議は、ポリコムの「Polycom UC Intelligent Core」に対応しているため、既存のビデオ会議システムやテレプレゼンスシステムとも通信が行えるという。

MOTOROLA XOOM は、デュアルコアプロセッサと 10.1 インチワイドスクリーン HD ディスプレイ、2 メガピクセルカメラと背面に HD ビデオの録画も可能な 5 メガピクセルのカメラを搭載している。

Polycom UC Intelligent Core は、追加のネットワーク構成を行うことなく、企業向けのビデオ会議やテレプレゼンスをモバイルユーザにも容易に拡大することができるという。

今回の対応アプリケーションは、2011 年下半期に発売する予定となっている。

VQS マーケティング、ブラウザに依存しない Web 会議システム専用ランチャーアプリ発表

VQS マーケティング株式会社(京都市)は、Web 会議システム「VQS コラボ」のランチャーアプリ「VQS クイックスタート」を発表。提供は 4 月より開始。(4 月 14 日)



アプリケーションランチャ (VQS マーケティング資料)



VQS クイックスタート入室画面 (VQS マーケティング資料)

ランチャーアプリである VQS クイックスタートは、インストール不要で、Web ブラウザに依存しないクライアントソフト。ブラウザの環境 (バージョンやフラッシュの有無など) によっては利用できないことが多い Web 会議システムと異なり、ブラウザに依存しない専用ランチャーアプリを用意した。

VQS クイックスタートは、実行ファイルをダブルクリックするだけで、すぐに VQS コラボを利用できる。また、VQS クイックスタートを USB メモリなどに入れて持ち運ぶことにより、インターネットに接続可能な Windows パソコンがあれば、国内・海外を問わず VQS コラボを利用できる。その際、インストール権限や管理者権限がなくても利用できるという。

VQS コラボは、音質は、FM 放送・CD に匹敵。また各社の手書き入力デバイスに対応したホワイトボード。低帯域の回線にも対応する通信帯域制御機能を搭載。用途や帯域にあわせたさまざまなタイプの会議室を用意。

VQS マーケティングでは、VQS クイックスタートにより、BCP 対策や在宅勤務にも適した Web 会議環境を提供するとともに、教育に特化した教育事業向けバージョンも提供しているという。

VQS コラボは、株式会社オサムインビジョンテクノロジー（京都市）が開発。VQS マーケティングは、VQS コラボおよび関連機材の企画・販売・サポートを行う。

ジャパンメディアシステムの Web 会議の新バージョン、PDF 対応、機能改良、サーバ構成強化など

ジャパンメディアシステム株式会社（東京都千代田区）は、Web 会議システムの新しいバージョン「LiveOn Ver9.0、9.0i」（日本語版、英語版）を発表した。リリース日は、5 月 18 日。（4 月 11 日）

今回のバージョンアップでは、資料共有機能の PDF ファイル対応をはじめとする各機能の改良や ASP サービスのサーバ構成のさらなる強化を行った。

主なバージョンアップ内容については、以下の通り。

- (1) 資料共有機能の追加: 共有可能な資料として、pdf ファイルと PostScript ファイルを追加した。
- (2) ホワイトボード機能追加: 従来の画面表示拡大に加えて、縮小表示を可能にしたとともに、現在の表示倍率の表示を行う機能も追加した。
- (3) 単一ウィンドウモード機能の変更: 参加者リストおよびテキストボックスの表示を同期するように改良した。
- (4) テキストボックス機能の変更: テキストボックスの発言に時間が表示されるようになった。
- (5) アプリケーション共有機能の追加: 議長（会議主催者）が共有しているアプリケーションのウィンドウの移動や拡大・縮小が他参加者に自動的に反映される。アプリケーション

共有機能自体は、オプション機能（有償）となっている。

(6) 音声デバイス自動選択。会議室入室時にヤマハ製マイクデバイスを自動的に選択するように改良した。

(7) ASP サービスサーバ構成の強化: 従来も段階的に強化してきたが、より多くのユーザからの接続を安定して受けられるように、サーバ構成の強化を実施。

なお、マイクロソフト社の製品サポートの終了にともない、今回のバージョンより Windows2000 を動作保証の対象外とする。また、既存の LiveOn(Ver8.0)ユーザは、無償にて新バージョン(Ver9.0)へバージョンアップを行う。

ルーシッド、同社の無料電話会議サービスに会議ポータルを提供

ルーシッド株式会社（東京都渋谷区）は、同社が提供する無料電話会議サービス「BizSpeak(ビズスピーク)」に会議ポータル「カンファレンス・マネージャー」の提供を開始した。（4 月 24 日）



ログイン画面（ルーシッド 資料）



会議中画面（ルーシッド 資料）

カンファレンス・マネージャーでは、Web の画面から、電話会議の参加者の状況を確認したり、会議の履歴の参照、また会議室のロックをしたり、といった会議コントロールの機能を

利用できる。有償のオプションサービスとして提供するが、6月末までは無料サービスとする。



会議履歴画面（ルーシッド 資料）

提供される機能は、主に3つある。電話会議コントロールパネル、各種設定、会議履歴の表示になる。これらの機能は、BizSpeakのホームページより会議IDと暗証番号を入力することでログインできる。

まず、電話会議コントロールパネルでは、以下の機能を提供する。(1)開催中の電話会議の参加者状況の表示。表示する情報は、電話番号、名前、会議参加時間、発言状況などがある。(2)会議モードの変更。会議、プレゼンテーション、Q&Aより選択する。(3)会議のロック/ロック解除。(4)参加者のミュート/ミュート解除。全員もしくは特定の参加者。(5)開催中の特定参加者の強制切断。(6)電話会議の終了。

つぎに各種設定については、以下の通り。(1)デフォルト会議モードの設定/変更。会議/プレゼンテーション/Q&Aより選択。(2)入室/退出時のチャイム再生。ON または OFFより選択。(3)保留音の再生。ON または OFFより選択。(4)会議履歴表示のタイムゾーン設定。

最後の会議履歴の表示については、今まで開催された会議の履歴を表示するもので、情報としては、電話番号、名前、会議参加時間を表示する。

カンファレンス・マネージャーは、有償(7月以降)だが、4つのプランを提供する。1ヶ月プラン:1,050円、3ヶ月プラン:3,150円、6ヶ月プラン:5,775円、1年プラン:10,500円。詳細は同社に確認要。

ビジネス動向-国内

NTTら、G.711.1 Annex Dの国際標準化を実現、高音質な電話サービスなどへの適用へ期待

日本電信電話株式会社(東京都千代田区)は、ETRI(韓国)、フランステレコム、華為技術(中国)、VoiceAge(カナダ)と共同で、14kHz帯域の音声を符号化できる方式をITU-Tに提案し、G.711.1 Annex Dとして国際標準化されたと発表。(4月7日)

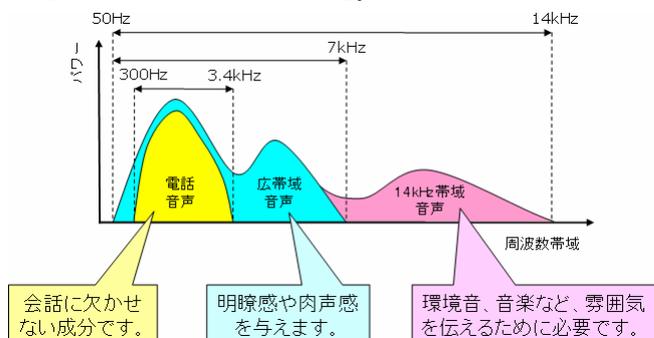
G.711.1 Annex Dの特徴は、以下の通り。

(1)14kHz帯域音声を再生可能:従来の電話音声(300Hzから3.4kHz)や7kHz広帯域音声(50Hz~7kHz)よりも広い帯域の音声を再生ができる。

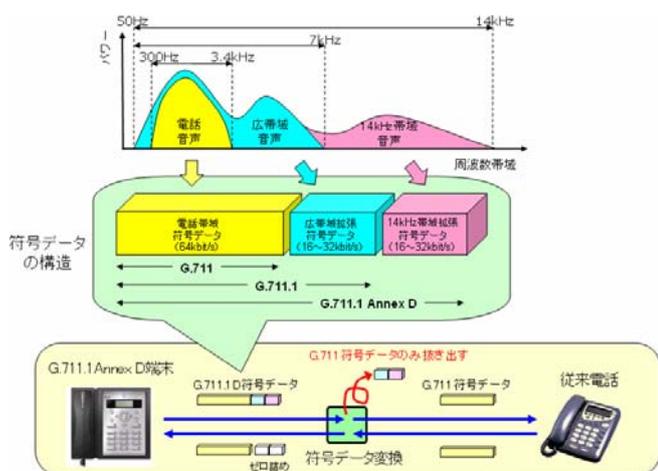
(2)双方向に適した少ない音声遅延:携帯電話の符号化方式3GPP AMRや放送用途の方式MPEG AACでは、音声信号を20ms以上のブロック単位で処理するため遅延が避けられないが、G.711.1 Annex Dでは、G.711.1と同じように5ms(ミリ秒)単位で処理しているため、より遅延を抑えられるという。

(3)従来電話との相互接続が容易:G.711.1 Annex Dは、G.711やG.711.1で再生可能な符号データに、音声帯域を広げるための符号データ(16~32kbit/s)を追加して伝送する方式を取るため、G.711の符号データを取り出すだけで符号変換が可能。そのため、従来電話とも接続ができる。

(4)多地点音声ミキシングが容易:多地点会議での音声ミキシングには膨大な処理が必要。しかし、G.711.1 Annex Dと部分選択ミキシングとを組み合わせることで、一桁以上少ない処理量でのミキシングが可能。



G.711.1 Annex Dの特徴 (NTT 資料)



G.711.1 Annex D の特徴 (NTT 資料)

2008.1	NTT研究所から、G.711.1を14kHz帯域に拡張する方式(G.711.1-SWB)の標準化開始を提案し、ITU-T会合で合意、以降、技術検討をスタート
2009.9~	NTT、ETRI(韓)、France Telecom(フランス)、華為技術(中国)、VoiceAge(カナダ)の5機関によるコンソーシアムで標準案を検討
2010.7	ITU-Tの品質確認試験で、5機関による共同提案が要求品質を満たすことを確認、最終承認プロセスに進むことにITU-T会合で合意
2010.11	G.711-SWBが、正式にITU-T標準G.711.1 Annex Dとして成立

標準化までの経緯 (NTT 資料)

標準名称	概要	成立時期
G.711.1 Annex ¹¹ C	G.711.1の符号データのほとんどを占めるG.711の符号データをG.711.0 ¹⁰ を用いてロスレス圧縮する方式、G.711.1の音質を全く損ねることなく、圧縮効率を上げられる	2010.10
G.711.1 Appendix ¹² IV	左右2チャンネルのステレオ信号を、Mid-Side(MS) 2チャンネルのステレオ信号に変換し、それぞれG.711.1 Annex Dを適用して符号化するステレオ符号化の標準	2011.3

関連して成立したその他の標準 (NTT 資料)

NTT サイバースペース研究所では、従来から VoIP 電話向けの G.729 や NGN 向けの G.711.1 などの取り組みを行ってきた。今回、新たな符号化方式を実現させることで、高音質な電話サービスなどへの適用を期待している。

ビジネス動向-海外

シスコ社、Cisco umi を含めたコンシューマ事業の再編成を発表

米シスコシステムズ社は、家庭向けテレプレゼンスシステム「Cisco umi(シスコ ユーミー)」を含めたコンシューマ事業の再編成を発表。(4月12日)

米シスコ社は、昨年10月にCisco umiを発表していたが、今回コンシューマ事業の再編成発表を受けて、今後は、

Cisco umi を、同社のビジネス向けテレプレゼンス製品ラインナップのひとつに位置づけ、現行のテレプレゼンス事業の事業方針に沿って企業やサービスプロバイダーに Cisco umi を展開していく。



Cisco Umi(米シスコシステムズ社 資料)

これに先立ち、米シスコ社は、3月7日にCisco Umiの機能拡張や新製品、価格改定、ビジネス向けテレプレゼンス「Cisco TelePresence」との相互接続の実現に関する発表を行っている。

それらは以下の通り。(1)「Cisco umi Connect」:PCとMac対応のHDビデオクライアントソフト(無料、現在トライアル中)。(2)「Cisco umi 720」:より少ない帯域で720pテレプレゼンスが可能な新しい製品。価格は、399ドル。(3)「Cisco umi 1080」:当初発売の1080p対応製品で、新しい価格に設定。499ドル。(3)Cisco umi 1080と720のサービス料金の改定。新しい料金は、年間99ドル。月額9.95ドル。

一方、Umiの事業については現在、米ベライゾン社が、同社の光ファイバーインターネットサービス「FiOS」に対応したumiサービスの開始を今年予定している他、欧州、ラテンアメリカ、アジアにおいてフィールドトライアルを実施している。

Umiは、HDカメラ、コンソール、リモートを同梱した製品。リビングルームやグループ対グループ会話での利用を想定しているため、室内の明るさや音を自動調整したり、カメラについては、ズーム、パン、チルト機能を提供している。その他、ネットワーク状況にあわせて送受信の調整を自動的に行う機能、HDレコーディング機能、Facebook、Flipshare、Youtubeでのシェア機能もある。レコーディングは、PCやMacあるいは

はスマートフォンからも視聴できる。なお、通信については、umi Connect 以外にも Google Video チャットにも対応している。

今回のコンシューマ事業の再編成には、umi の他、Flip 事業の終了、ホームネットワーキングや「Eos」メディアソリューションの事業フォーカスの再検討も含まれている。

Interoute 社、VCG 社を買収、VaaS 型マネージドビデオ会議サービスを提供

英 Interoute Communications 社は、スウェーデンの Visual Conferece Group(VCG)社を買収を発表した。(3月9日)

買収によって、マネージドビデオ会議/テレプレゼンスサービス(Video as a Service)を加えることで、Interoute 社の「Interoute Unified ICT Portofolio(インタールートユニファイド ICT ポートフォリオ)強化を行う。

Interoute 社は、「enterprise ICT infrastructure-as-a-service(エンタープライズ ICT インフラストラクチャーアズ ア サービス)」を提供する。6 万 km の光ファイバー網を構築し、8 つのデータセンターの他、コロケーションセンターも持つ。さらには、150 ものデータセンターパートナーへの接続も行っている。ビデオ会議については、9 年の実績があり 50 カ国に提供した経験がある。

一方、VCG 社は、2002 年に、元タンバーク社員によって設立された企業。8 つのオフィスから世界 50 カ国へのビデオ会議システムの設置やローカルサービス、そしてサポートサービスを提供している。

AVM 社、VC-NET 社を買収を発表、ユニファイドコミュニケーションソリューションを強化

イギリスの AVM 社は、同じくイギリスの VC-NET 社を買収を発表した。(4月)

AVM 社は、1990 年設立。オーディオビジュアルシステムインテグレーター。役員会議室向けから IP ビデオ会議ネットワーク構築までオーディオビジュアルソリューションの構築からサポートまでの実績がある。

一方、VC-NET 社は、2000 年設立。ビデオ会議端末とネットワーク構築を専門とする。またビデオから音声さらにはインフラまで含めたマネージドアウトソーシングサービスも提供している。

今回の買収によって AVM 社の「AVM Connect サービス」を補完し、ユニファイドコミュニケーションソリューションを強化する。VC-NET 社の社員は、AVM 社グループに入ることになる。

Teliris 社と FuzeBox 社の戦略的提携、SVC でテレプレゼンスと Web 会議を共通プラットフォーム化

米テレプレゼンスメーカー Teliris 社は、Web 会議システムを提供している米 FuzeBox 社と戦略的な提携を行ったと発表。(4月14日)

今回の提携によって、両社は、会議室の外へビジュアルコミュニケーションを展開していくことを共通のビジョンとして共有する。具体的には、FuzeBox 社のオンラインミーティングツール「Fuze Meeting」を H.264/SVC をベースに Teliris 社のテレプレゼンスの環境に統合する。これにより、テレプレゼンスと Web 会議におけるシームレスな機能統合を行い共通のプラットフォームを実現する。

このプラットフォームの共通化によって、Fuze Meeting のユーザは、Teliris 社のコラボレーションツールを利用したり、Fuze Meeting を通じて、「iPad」、「iPhone」、「Android」などのスマートフォンも利用したりできるようになる。

今後両社は、共同で市場においてもっとも臨場感のある(immersive)ミーティングソリューションを提供していく考えだ。

Mirial 社、Vovoda 社と提携、デンマーク市場に参入

Mirial 社は、デンマークの Vivoda 社と販売代理店(distribution)契約を締結したことを発表した。(4月13日)

この締結によって、Vivoda 社は、デンマークにおいて、Mirial 社のデスクトップおよびモバイル製品の販売を行うこと

になる。この販売には、「ClearSea」やソフトフォン「Mirial Softphone」が含まれる。ClearSea は、パソコンについては、Windows PC や Mac、また、スマートフォンについては、アンドロイドと iOS に対応する。また通信プロトコルについては、H.323 と SIP に対応する。

Mirial 社にとって、国際展開を支援してくれる現地パートナーは非常に重要。Vivoda 社がパートナーに加わることで、ヨーロッパ市場での足場をさらに強化できると考えている。Vivoda 社は、2007 年からビデオ会議に特化したソリューションを提供している。

ポリコム社、Ari Bose 氏を CIO に任命

米ポリコム社は、Ari Bose 氏を、同社のシニアバイスプレジデント兼最高情報責任者(CIO)に任命したと発表。(4月26日)

Bose 氏は、IT 部門の責任者として、社内のグローバルビジュアルコミュニケーションネットワークを管理する。このネットワークは、「UC Intelligent Core インフラストラクチャープラットフォーム」上で稼働しており、月間約 10 万件のビデオ通話をサポートしている。同氏が率いるチームは、UC ネットワーク導入における成功事例を顧客に提供する情報源の役割を担い、また、製品開発チームに対して、将来の技術革新のための意見提出も行う。

ポリコム社入社前は、IP ネットワーキングやテレコミュニケーションソリューションを提供する UTSartcom 社のシニアバイスプレジデント、CIO 兼ビジネストラנסフォーメーションオフィサーを務める。グローバルな情報戦略の構築、ビジネスプロセスとシステムの再編、買収に関わる統合プロセスの推進などの実績がある。

導入・利用動向-海外

マンハッタン音楽院、ポリコム社のテレプレゼンスを活用した音楽遠隔教育

ポリコム社とマンハッタン音楽院(MSM)は、10年にわたる提携関係を拡大することを発表した。(4月11日)

マンハッタン音楽院(MSM)は、ポリコム社のテレプレゼンスや「Polycom UC Intelligent Core」や「UC Everywhere」を活用することで、毎年数千人にのぼる K-12(幼稚園から高校3年生まで)や高等教育機関、コミュニティを含めた学生に対して、Global Conservatory プログラムを基に、クラシック、ジャズ、ワールドミュージック、オペラなど音楽の遠隔教育を行ってきた。その中で、両社は、ライブミュージックをより正確に再現するための「Polycom HDX」テレプレゼンスソリューション独自の技術として「Music Mode」も共同で開発した。

また、MSM は、オーストラリア国立大学(ANU)音楽学部と新たに提携し、オーストラリアの学生にプログラムの提供を開始。これを機会に、ポリコム社と MSM は提携を拡大し、ネットワークとプログラムの拡充を行う。

MSM と ANU は、個別指導とマスタークラスの実施の他、スタッフと学生のバーチャルな交流、遠隔地との演奏、教育の成功事例に関する共同研究などを実施していく予定だ。

MSM では、テレプレゼンスを活用することによって、専門知識共有のための距離的な障壁を取り除くことができるため、世界のあらゆる場所で芸術教育が受講できると高く評価する。

今後は、国際的なベンチマーキング(評価基準)の設定や、ANU を介した米国教育機関向けのバーチャルオーデイションなどを実施していくという。

マンハッタン音楽院(Manhattan School of Music)

<http://www.msmnyc.edu/>

セミナー・展示会情報

< 国内 >

会議の効率化を実現! 『ConforMeeting 無料体験セミナー』定期開催

日程:5月18日、25日、6月1日(水)、8日(水)、15日(水)、22日(水)、29日(水)

※全ての日程で13:30~14:30、15:30~16:30の2回開催
会場:NEC 情報システムズ 本社(東京都港区)

主催:日本電気株式会社、株式会社 NEC 情報システムズ
詳細・申込:

<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformeeeting/seminar.html>

「V-CUBE ミーティング運用サポートオンラインセミナー」

日時:5月19日(木)11:00~12:00

会場:オンラインセミナー

主催:ブイキューブ株式会社

詳細・申込:

http://www.vcube.co.jp/training_seminar/operational/0509_1812.html

コンプライアンス重視の在宅勤務を実現する遠隔 Web 会議サービス SaasBoard3.1 今すぐ実施できる在宅勤務(テレワーク)

日時:5月20日(金)13:30~17:00

会場:渋谷区商工会館2F セミナー室

主催:ニューロネット株式会社、ライド株式会社

詳細・申込:<http://www.neuronet.co.jp/eventSeminar.html>

事業継続を支える！ 最新テレビ会議システム 体験セミナー見て、聞いて、触って ポリコム製の会議システム

日時:5月24日(火)、25日(水)*それぞれ2回開催。

時間確認ください。

会場:ポリコムジャパン株式会社

主催:株式会社大塚商会

協力:ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込:<http://event.otsuka-shokai.co.jp/11/0525ict/>

【"見える"カレッジ】 紙をなくしてエコと節電、V-CUBE ペーパーレス

日時:5月25日(水)15:00~(受付:14:30~)

会場:ブイキューブ本社(東京都目黒区)

主催:ブイキューブ株式会社

詳細・申込:http://www.vcube.co.jp/news/0510_1542.html

ビデオ会議システム"徹底的使いこなし"セミナー

日時:5月25日(水)14:30~16:55

京都:ゼネック IT ソリューションズ(中京区)

大阪:パナソニック電工インフォメーションシステムズ(北区)

主催:ゼネック IT ソリューションズ株式会社

共催:パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社

シスコシステムズ合同会社

詳細・申込:http://panasonic-denkois.co.jp/event/area_osaka/post_27.html

【"見える"カレッジ】 在宅勤務(テレワーク)のススメ

日時:5月27日(金)15:00~(受付:14:30~)

会場:ブイキューブ本社(東京都目黒区)

主催:ブイキューブ株式会社

詳細・申込:http://www.vcube.co.jp/news/0510_1549.html

成功するビジュアルコミュニケーション 戦略的活用セミナー~ 先進的利用顧客から学ぶ テレビ会議・Web 会議実践の秘訣~ (東京、大阪 2元中継 同時開催)

日時:6月3日(金) 13:30~17:20 (開場 13:00~)

会場:東京と大阪の TKP カンファレンスセンター

主催:VTV ジャパン株式会社

詳細・申込:<http://www.vtv.co.jp/seminar/1106vtv/index.html>

*基調講演は、日本大学 教授 工学博士 児玉 充氏。

コンプライアンス重視の在宅勤務を実現する遠隔 Web 会議サービス SaasBoard3.1 インターネットで受講できる在宅受講セミナー

日時:5月20日、6月10日(金)13:30~15:00

会場:ネット受講(オンライン)

主催:ニューロネット株式会社

詳細・申込:<http://www.neuronet.co.jp/eventSeminar.html>

<海外>

Polycom UC Webcast - LIVE

Innovation Driving UC Everywhere: From Mobile to the Cloud and Beyond With Polycom CEO Andrew Miller and Top Cloud and Mobility Industry Leaders

日時:6月1日(水)8:00-9:00 PDT | 11:00-12:00 EDT | 15:00-

-16:00 GMT(日本時間:6月2日(木)0:00-1:00)

会場:オンライン

主催:米ポリコム社

詳細・申込:http://www.polycom.com/company/events/UC.webcast_2011_Jun.html

InfoComm 2011

日時:6月11日-6月17日

会場:アメリカ フロリダ州 オーランド

主催:InfoComm International

詳細:<http://www.infocommshow.org/>

*遠隔会議業界では、代表的な展示会。会議システム関係が多数展示。

Twitter・LinkedIn・Facebook

Twitter と LinkedIn、Facebook のリンクを CAN レポート・ジャパンの Web サイト(トップページ右下にアイコンがあります)で公開しました。Twitter は、英語での遠隔会議情報収集のために始めたものですが日本情報を英語で発信しています。LinkedIn は、業界関係の掲示板が多数あるため参加するために始めたものですが、私のプロフィールも掲載しています。Facebook は、個人的なページになっています。もし興味があればご覧ください。

<http://cnar.jp>

編集後記

今回もご覧いただきありがとうございます。

今号の定期レポートには掲載が間に合いませんでしたが、マイクロソフトのスカイプ買収のニュースが入ってきました。買収額が85億ドルですので大変驚きました。マイクロソフトがスカイプを傘下に置くことで今後の遠隔会議市場への影響はどうなってくるのか、今後も市場をワッチしていきたいと思えます。

次回もよろしくお願ひ致します。

橋本 啓介